

# カルビーグループ決算説明会

2015年4月1日～2015年6月30日

カルビー株式会社 2015.8.3

掘りだそう、自然の力。

**Calbee**



# 2016年3月期第1四半期決算報告

---

上級執行役員 財務經理本部長  
菊地 耕一

# 第1四半期レビュー

## KPIs (重要業績評価指標)

	通期目標	第1四半期実績	進捗
増収率	+8.0%	+14.5%	
営業利益増益率	+19.1%	+3.9%	
営業利益率	12.0%	10.2%	
海外売上比率	12.1%	13.1%	
国内スナック市場シェア	56.0% *	52.7%	
国内ポテトチップス市場シェア	75.0% *	73.5%	
国内シリアル市場シェア	34.0% *	33.9%	

\* シェア目標は2016年3月時点

出所：㈱インテージSRI調べ 全国全業態 金額ベース 2015年4月～2015年6月  
 スナック市場シェアはカルビーとジャパンフリトレーの合計  
 ポテトチップス市場：ポテトチップス(生薄切り・生厚切り) ・ポテトシュースト・ケトル合算、  
 非公開PBを含む

## サマリー

- 売上は国内・海外ともに計画・前年を大きく上回ったが、利益成長が鈍化
- 海外戦略の実現
  - ✓ 2015年4月 シンガポールの販売代理店を買収、Calbee Moh Seng Pte. Ltd. に社名変更
  - ✓ 2015年4月 スペインに100%子会社Calbee Iberia, S.L.を設立

# 2016年3月期第1四半期 決算ハイライト



	2015年3月期 第1四半期	2016年3月期 第1四半期	伸び率	計画比
	百万円	百万円	%	%
売上高	52,269	59,831	+ 14.5	106.6
売上総利益	23,094	25,106	+ 8.7	105.3
販売管理費	17,226	19,008	+ 10.3	107.2
販売費	7,361	8,228	+11.8	109.0
物流費	3,365	3,934	+16.9	107.3
人件費	4,192	4,393	+4.8	102.8
その他	2,306	2,451	+6.3	109.0
営業利益	5,867	6,098	+ 3.9	100.0
経常利益	5,891	6,061	+ 2.9	104.7
特別損益	△34	△40	—	—
四半期純利益	3,378	3,482	+ 3.1	106.3

## 売上は二桁成長と好調 一方で営業利益は微増にとどまる

### 売上高

ポテト系スナック、フルグラ、海外事業が大きく伸長

### 売上総利益

売上総利益率は2.2ポイント低下

- ・円安に伴う原材料価格の上昇
- ・増量施策や歩留り悪化による原材料費増加
- ・新工場、新ライン立ち上げに伴う経費増加

### 販売管理費

国内：需給バランス調整費用の発生  
海外：北米などで積極的に投下

### 営業外損益

為替差益 197百万円  
開業費 308百万円

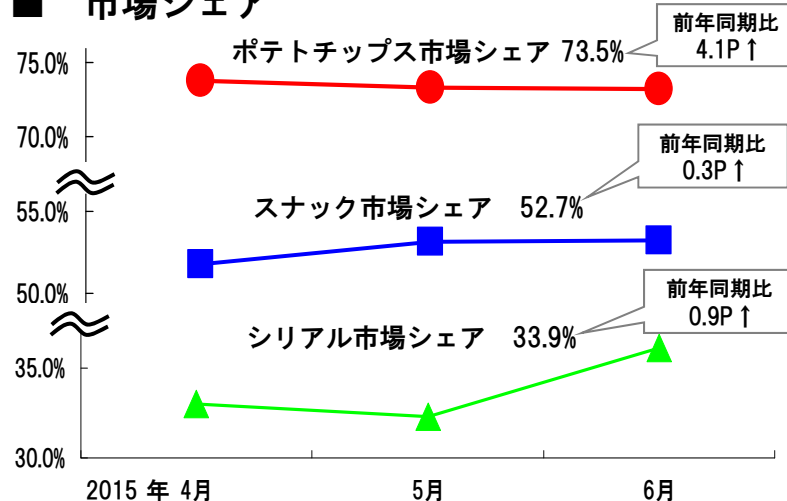
( UK 268百万円 )  
( インドネシア 39百万円 )

- ポテト系スナック、フルグラが売上成長を牽引
- 原価上昇により、営業利益は前年を下回る

## ■ 増収要因 製品別 百万円

売上高	+	4,315
ポテト系スナック	+	2,523
ポテトチップス	+	2,210
じゃがりこ	+	244
コーン系スナック	+	80
シリアル食品	+	1,429
ベーカリー	+	428
その他	△	145

## ■ 市場シェア



## ■ ポテト系スナック

### ポテトチップス

- ・ 発売40周年増量キャンペーンにより定番品が好調
- ・ 堅あげポテトは品揃え強化により好調
- ・ PBも伸長

### じゃがりこ

- ・ たらこバター味が好調
- ・ 期間限定品を早期終売



## ■ シリアル食品

- ・ 2015年5月『フルグラ』の新生産ラインが稼働、生産能力は1.5倍に拡大
- ・ 製品ラインアップを拡充



出所：(株)インテージSRI調べ 全国全業態 金額ベース  
 期間計：2015年4月～6月 前期：2014年4月～6月  
 スナック市場シェアはカルビーとジャパンフリトレーの合計  
 ポテトチップス市場：ポテトチップス(生薄切り・生厚切り)・ポテトシュースト・ケトル合算  
 非公開PB含む

## 北米と韓国が売上・利益成長を牽引

百万円

	2015年3月期 第1四半期	2016年3月期 第1四半期	増減
<b>売上高</b>	<b>4,619</b>	<b>7,866</b>	<b>+3,246</b>
北米	1,996	3,364	+1,368
中国	489	491	+2
韓国	545	1,832	+1,287
タイ	640	714	+74
香港	744	769	+24
台湾	203	114	△ 89
フィリピン	-	219	+219
シンガポール	-	358	+358
<b>営業利益</b>	<b>612</b>	<b>1,171</b>	<b>+559</b>
北米	666	959	+293
中国	△ 119	△ 76	+43
韓国	△ 16	251	+267
その他	81	37	△ 44

### ■ 北米

- Harvest Snapsの好調が継続し、増収増益
- 2015年6月よりミシシッピ州新工場が稼働開始

### ■ 中国

- 赤字継続
- 杭州カルビーはパートナーとの話合いが継続中

### ■ 韓国

- ポテトチップスのHoney Butter Chipの好調が継続し、大幅増収増益

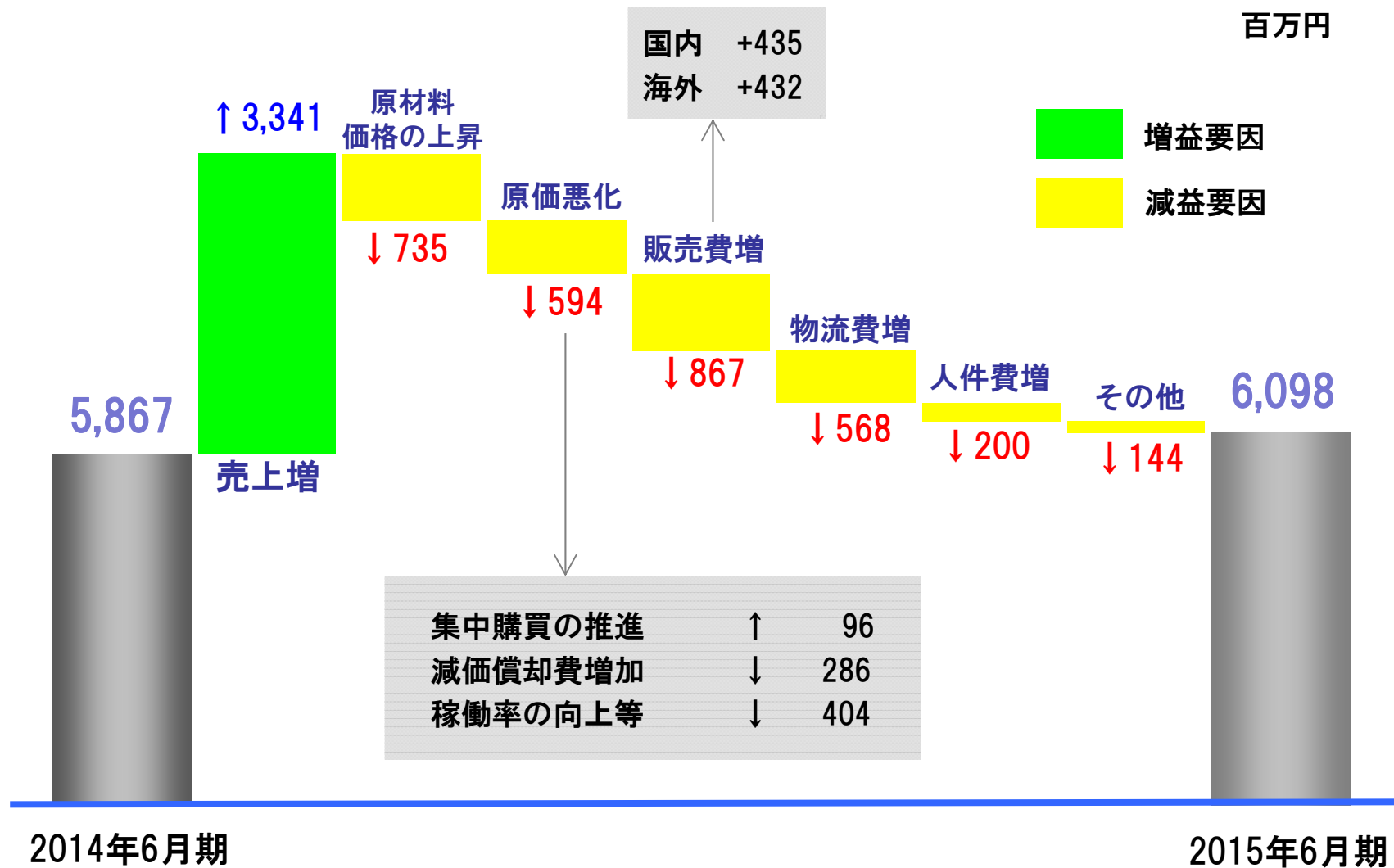
### ■ フィリピン

- 2015年2月よりポテトチップス、Jagabeeの販売開始
- 売上好調で計画を大きく上回る

### ■ シンガポール

- 2015年4月より連結子会社化

### ■ 増収額のうち円安効果 1,032百万円



# 計画達成に向けて

---

執行役員 経営企画・IR本部長  
早川 知佐



# 第2四半期 事業方針

## 第1四半期営業利益率低下要因

## 第2四半期以降の取り組み

### 継続的課題

- 円安に伴う原材料価格上昇



- 円安傾向は継続の見通し、集中購買により追加策を実施

- 減価償却費負担増加



- 償却費は増加の見通し、売上伸長により原価率を改善

### 一時的課題

- 欠品、在庫増加に伴う廃棄損、販促費、物流費の増加



- 販売と生産の連携強化により、需給バランスを適正化

- 新工場、新ライン立ち上げに伴う製造経費増加



- 第2四半期以降は解消見込み

- コーン系スナックの売上低迷による収益悪化



- PB、チャネル限定製品の発売等により販売を強化

## ■ 需給バランスの適正化

- ・ 販売と生産の連携強化により、需給バランスを適正化。廃棄損、販促費、物流費を削減

## ■ スナックシェアの拡大

- ・ 『カルビー大収穫祭2015』の実施（9～12月）
- ・ 堅あげポテト、じゃがりこの販売強化

## ■ フルグラ

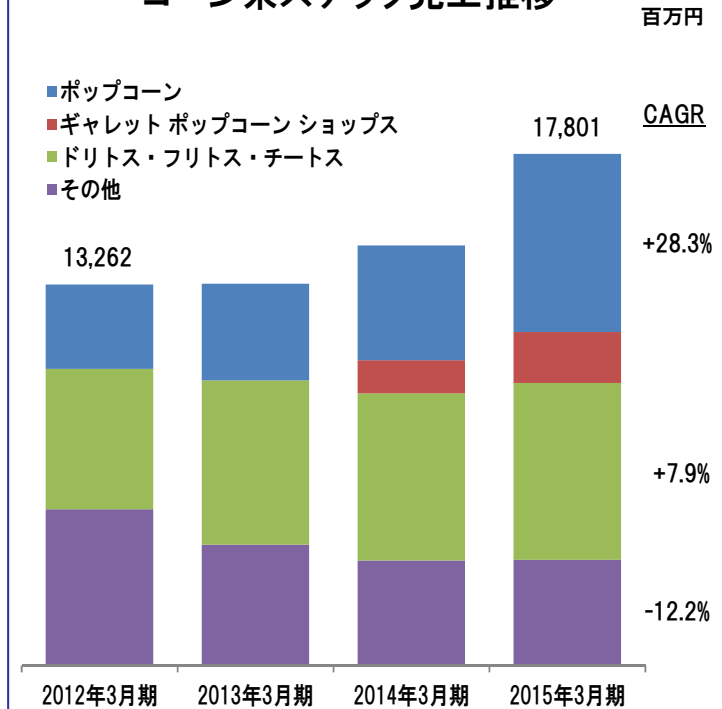
- ・ 和の具材を使用した『黒豆きなこ味』を発売、製品ラインアップ拡充



## ■ コーン系スナックの販売強化

- ・ PB、チャネル限定製品を発売
- ・ 『マイク・ポップコーン 塩キャラメル味』の展開拡大

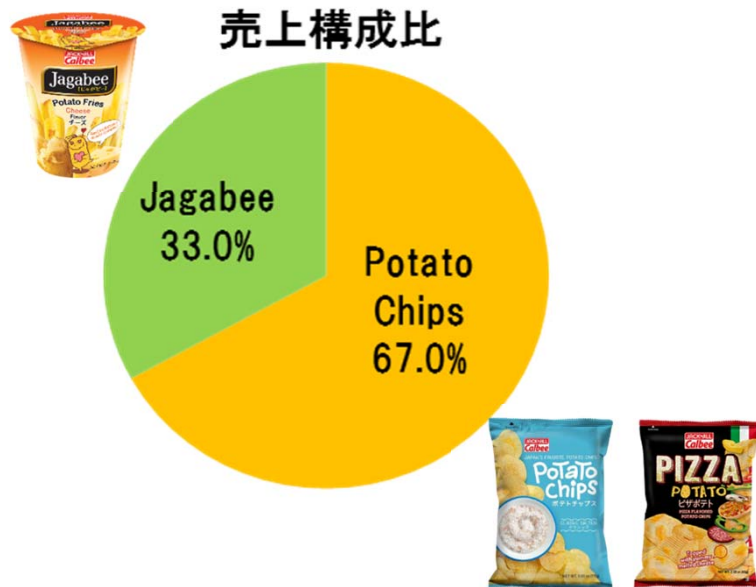
コーン系スナック売上推移



# 海外事業方針

## フィリピン

- 2015年2月よりURCとのJVで生産開始
- 7-ElevenやSM SupermarketなどのMTが主力販売チャネル
- Pizza Potato等のプレミアムラインが好調に推移



## UK

- 2015年6月より「YUSHOI」(Harvest Snaps)のサンプリング及び通信販売を開始
- 本格展開は2016年3月期下期の予定



## シンガポール

- 2015年4月に販売代理店を子会社化



# 参考資料

# 製品別売上高

百万円

	2015年3月期 第1四半期			2016年3月期 第1四半期		
	金額	構成比	伸び率	金額	構成比	伸び率
ポテト系スナック	27,350	52.3%	+6.0%	29,874	49.9%	+9.2%
ポテトチップス	16,169	30.9%	+7.8%	18,379	30.7%	+13.7%
じゃがりこ	8,172	15.6%	+6.6%	8,417	14.1%	+3.0%
Jagabee	2,214	4.2%	△ 9.0%	2,193	3.7%	△ 0.9%
小麦系スナック	5,464	10.5%	+0.2%	5,421	9.1%	△ 0.8%
コーン系スナック	4,502	8.6%	+16.3%	4,582	7.7%	+1.8%
ベジップス等新規スナック	1,442	2.8%	△ 4.2%	1,457	2.4%	+1.0%
国内 その他	690	1.3%	+53.3%	580	1.0%	△ 15.9%
国内スナック計	39,450	75.5%	+6.4%	41,916	70.1%	+6.3%
海外	4,619	8.8%	+26.7%	7,866	13.1%	+70.3%
スナック計	44,070	84.3%	+8.2%	49,782	83.2%	+13.0%
シリアル	4,217	8.1%	+45.2%	5,647	9.4%	+33.9%
ベーカリー	3,063	5.9%	△ 2.0%	3,492	5.8%	+14.0%
その他食品計	7,281	13.9%	+20.7%	9,139	15.3%	+25.5%
役務提供	917	1.8%	+15.9%	909	1.5%	△ 0.8%
売上高合計	52,269	100.0%	+9.9%	59,831	100.0%	+14.5%

# 国別売上高

国名	円	2015年3月期 第1四半期	2016年3月期 第1四半期	伸び率
	現地通貨			
北米	百万円	1,996	3,364	+68.5%
	千ドル	19,599	27,733	+41.5%
中国	百万円	489	491	+0.6%
	千元	29,942	25,147	△16.0%
韓国	百万円	545	1,832	+236.1%
	百万ウォン	5,451	16,601	+204.5%
タイ	百万円	640	714	+11.7%
	千バーツ	204,215	195,862	△4.1%
香港	百万円	744	769	+3.3%
	千HKドル	56,690	49,151	△13.3%
台湾	百万円	203	114	△43.9%
	千NTドル	60,012	29,020	△51.6%
フィリピン	百万円	—	219	—
	千ペソ	—	80,474	—
UK	百万円	—	0	—
	千UKポンド	—	0	—
シンガポール	百万円	—	358	—
	千SGドル	—	3,979	—

## 2015年8月3日開催 2016年3月期第1四半期決算説明会での主な質疑応答

**Q1 第1四半期において利益率を低下させた需給バランスの悪化とその対策について詳しく教えてほしい。**  
これまででない高い稼働率のもとで効率的にオペレーションすることができず、計画以上の売上増とアイテム数の増加により、今年の3月頃から需要と供給のミスマッチが起き、欠品と在庫増が同時に起こりました。在庫増に伴い、倉庫料や廃棄損が増加し、また、欠品対応費用も発生しました。

利益率の改善を図るため、6月に全社横断プロジェクトを立ち上げ、販売と生産の連携を強化するためのコントローラーを各事業本部に配置しました。コントローラーはマーケットの要望と工場の稼働の両面で、最適なアイテム数、生産量、在庫量をコントロールする権限を持ち、既存の生産キャパシティの中で効率化を行い、需給バランスの適正化を図ります。これにより、売上のモメンタムを維持しながら、廃棄損、販促費、物流費の削減を行っていきたいと考えています。ただし、効果が出るまでに2-3ヶ月かかる見込みです。

**Q2 原価悪化のうち、一時的な要因によるものを教えてほしい。**

原材料価格の上昇と原価悪化の合計13億円のうち、ポテトチップスの増量キャンペーンや馬鈴薯品質の低下による原材料コスト増、賞与の引当不足などのワンタイムのコスト増が4億円です。一方で、在庫増に伴う廃棄損や物流費の増加、欠品対応に伴う販促費増加等が4億円で、これについては、現在解消すべく、対策を講じているところです。

**Q3 フルグラの5月からの新ライン稼働状況、通期の売上見通しについて教えてほしい。**

新ライン稼働以降もフル生産の状況が続いています。欠品も解消できておらず、需要に対応できていない状況です。新ライン稼働後の月間売上は20億円を超えており、売上は通期計画を上回る見通しです。

**Q4 原材料価格上昇の対応策として、減量や単純値上げなどは計画しているのか？**

選択肢としては常にもっていますが、現時点では、値上げをしなければならない状況ではないと考えています。ただし、価格はお客様が決定するものという考え方に変更はありません。

**Q5 北米の新工場が稼働したが、現在の利益率は維持できるのか？**

6月より新工場が稼働開始していますが、6月は立ち上げ費用の発生、稼働率の低い(25%程度)状況や原料調達価格の上昇などにより、4-5月に比べて利益率は低下しました。今後、新工場の減価償却費負担の増加は継続しますが、稼働や原料調達が安定することによって、通期で20%以上の営業利益率を確保したいと考えております。

**Q6 北米のRuffles® Crispy Fries およびJagabeeの状況について教えてほしい。**

Ruffles® Crispy Friesは低調な売上が続いています。一方で、カルビーによる自社ブランド商品は、アジア系のグロサリーストアなどにチャネルを限定して販売を行っています。年内に自社ブランドを本格展開する予定です。

**Q7 韓国が売上、利益ともに好調だが、生産キャパシティの状況について教えてほしい。**

昨年秋からポテトチップス新フレーバーのHoney Butter Chipが好調に推移しており、フル生産の状況が続いています。稼働率が向上したことで原価が改善され、大幅な増益となっています。来年度上期に新工場を設立し生産能力を拡大する予定です。

以上